学校番号	111

令和２年度　家庭科

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	子どもの発達と保育　（実教出版）						
副教材等	最新　生活ハンドブック 2019 資料&成分表（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇授業における課題に対して自分で創造・想像し、考え、判断して行動ができる力をつけよう。
〇保育実習で乳幼児とふれあい、子どもの健全な成長にかかわる体験・実践に積極的に取り組もう。

2　学習の到達目標

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもについての関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。	子どもの発達を踏まえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。	子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。
評価方法	学習状況の観察 課題レポート、ノートなどの提出物の記述 保育実習記録 課題の発表 自己評価など	学習状況の観察 課題レポート、ノートなどの提出物の記述 課題の発表 定期考査の結果 相互評価 自己評価など 保育実習記録	学習状況の観察 課題レポート、ノート等の提出物記述 保育実習記録 定期考査の結果 課題の発表 相互評価 自己評価など	学習状況の観察 課題レポート、ノート等の提出物記述 保育実習記録 定期考査の結果 課題の発表 自己評価など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		

1学期	子どもの発達の特性	1 発達と乳幼児期の意義 2 発達と保育環境 3 児童観と発達観 4 ネームワッペン製作 5 保育実習(第1回)	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:人間の発達に関して興味・関心を持ち、特に乳幼児の発達について学ぼうとする意欲が見られる。 b:歴史的な経過を踏まえながら、子どもの発達観について考察し判断できる。現代における発達観を観察し、その方向性を判断することができる。 c:自分自身が現在どのような児童観・発達観を持っているのか客観的に分析・考察し、この章の動機付けをすることができる。子どもにとって安全で興味がもてることはどういうものか考え、製作したり表現することができる。 d:人の一生を生涯発達として捉え、その中でも特に乳幼児が大切な時期であることが理解できる。児童館や発達観に関するおもな歴史的考え方を理解し、知識として身につけている。	行動観察 レポート ノート 相互評価 自己評価 定期考査

1学期	子どもの発達の過程	1 子どもの発育 2 子どもの精神発達 3 人間関係の発達 4 保育実習（第2回） 5 廃品利用のおもちゃ制作	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a: 新生児から乳幼児期までの身体的発育・生理的機能・精神的な発達の特徴について意欲的に理解しようとする態度が見られる。乳幼児期における発達に関わる適切な対応の仕方を学ぼうといている。 b: 子どもの発達には人々との関わりを中心にさまざまな条件や要素があることを理解し、その関わり方について考察することができる。 c:乳幼児の発達の観点から子どもの行動などを見て、子どもの特有の行動パターンや感情表出などが推察でき、子どもの行動を理解することができる。 d:新生児から乳幼児期までの身体的生理的な発達の特徴を知識として習得し、それを子どもとのかかわり方に応用することができる。	行動観察 レポート ノート 定期考査 相互評価 自己評価
2学期	子どもの生活	1 生活と養護 2 子どもの遊び 3 生活習慣の形成 4 健康管理と事故防止 5 支援を必要とする子ども 6 絵本の読み聞かせ 7 身体遊びうた 8 保育実習（第3回・第4回）	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:子どもの生活全般（健康、食生活、衣生活、遊び、生活環境、病気、安全など）について広く関心を持ち、理解しようとする態度が見られる。 b:子どもにとっての適切な生活の条件について思考し、子どもの養護全般について応用することができる。 c:子どもの生活を養護するために必要な技能を教科書の資料や実習を通じて身につけている。 d:子どもの生活全般において子どもが健康で安全な生活をするために必要な知識と技術を具体的な方法として身につけている。	行動観察 レポート ノート 相互評価 自己評価

2学期	子どもの保育	1 保育の意義と重要性 2 家庭保育と集団保育 3 保育の方法 4 保育実習(第5回) 5 聖バルナバ病院思春期教室	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:集団保育と家庭保育の観点から子どもを保育する意義について学ぼうとする意欲が見られ、自身を子どもを取り巻く周囲の大人としてとらえ、果たすべき役割などについて考えようとしている。 b:集団保育家庭保育、それぞれにおける場面での子どもとの適切な関わり方について理解を深めることができる。保育園への訪問実習を通して子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析し、これらをレポートなどの形式にまとめることができる。 c:保育園への訪問実習やリトミック体験を通じて子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析できる。 d:保育の意義や重要性について理解できる。保育の場として家庭保育、集団保育があることを知識として習得し、それぞれの特徴や役割を理解している。	行動観察 レポート ノート 定期考査

3学期	子どもの福祉	1 子どもの福祉 2 子育て支援 3子どもの発達と保育に関する研究と発表	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:人権の観点から、児童福祉に関する考え方や法律、制度、機関等について興味関心を持っている。 b:子どもを健やかに育てていくためには具体的な施設が必要であることがわかり、今後の施策の方向が判断することができる。現代における子ども、子育てに関わる問題点や課題について自身の考えを述べることができる。 c:現代における子ども、子育てに関わる問題点や解決について自身で情報収集することができる。 d:児童福祉の考えやそれに関わる制度を知識として習得している。それらを踏まえて、子どもや子育てを取り巻く問題点や課題にまで踏み込んで分析し、望ましい方向性について理解している。	行動観察 レポート ノート 定期考査 相互評価 自己評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。